

平成20年度「専修学校・高等学校連携等職業教育推進プラン」成果報告書

| | | | |
|---|---------------------|------------|------------|
| 事業名 | 専修学校職業体験講座 | | |
| 法人名 | 社団法人 茨城県専修学校各種学校連合会 | | |
| 学校名 | | | |
| 代表者 | 会長 八文字 敏宏 | 担当者 連絡先 | 事務局長 難波 浩美 |
| <p>1. 事業の概要</p> <p>若者に、仕事への関心を深めてもらい、職業意識の向上を目的として中学校・高等学校等と各専修学校が連携し、職業体験的な学習を実施した。</p> <p>事業実施にあたり、茨城県教育委員会の後援を得て、事業が円滑に進むようにした。参加専修学校は、それぞれが学校の特色を生かした職業体験講座を実施した。</p> <p>中学生・高校生等にそれぞれの職業体験講座を実施している専修学校へ直接出向いてもらい、自分の希望する職業や興味のある仕事について、どのような事を勉強するのか、またどのような資格が必要なのかを実際に肌で感じてもらい職業意識の醸成をはかった。</p> <p>さらに、その職業に内在するさまざまな内容や基本的技術及び知識について、抽象的なとらえ方から、より具体的などらえ方をするきっかけとして有効に活用してもらうことをねらいとした。</p> <p>また、参加した中学生・高校生等にアンケート調査を実施し、興味のある仕事、職業体験講座に参加しての感想等も調査した。実施専修学校からも、担当者から感想を挙げてもらい、今後の課題や反省を検証することとした。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>高校生の職業観・就労観の育成や進路選択のための判断材料を提供する機会として、それぞれの志向・適性等に応じた職業体験講座を実施することとする。職業を表面で捉えるのではなく具体的・実践的に捉え、それをもとに高校時代に準備すべきことや、明確な目標設定を行うことが重要となる。</p> <p>また、その職業の特質を事前に理解しておくことも大切になってくる。表面的なイメージが先行してしまう傾向にあり、現実的な場面とかけ離れた所での職業意識は将来的に問題となる。</p> <p>こうしたことを踏まえ職業における基礎技術の重要性、企業に求められる人物像といったことについても、体験講座を通じてより具体的な理解へとつなげることが可能となった。</p> <p>キャリア教育の上からも、職業意識の醸成・就労観の育成ということを達成するに至ったのではないかと思う。</p> <p>今回、本事業における専修学校の参加は12校。各専修学校における受け入れ総数は224名であり、参加者は175名であった。分野別では、商業実務分野から工業分野・医療分野・服飾家政分野と多岐にわたり実施することができた。</p> <p>はじめての事業であり、準備期間も短く試行錯誤の連続であったが、かなりな効果を残すことができたのではないかと思う。</p> <p>参加者のアンケートには、大多数が大変満足という回答を寄せている。将来の仕事を考える上で役にたったかとの質問には、約95%の参加者が「はい」と答えている。</p> <p>また、保護者や高等学校の教員の意見としてもあり、進路指導を行っていくうえで、非常に有意義なものとなったとの意見も寄せられた。</p> <p>なお、高校の先生より参加した生徒に対して、校内では見られない生き生きした姿を見ることができた、との感想も聞かれた。</p> <p>このようなことから、実施初年度であるにも関わらず、参加者及び高等学校の先生からも、かなりの評価を得たものと思われる。</p> | | | |

②事業により得られた成果

中学生・高校生等の職業意識の向上を図る講座として、職業体験講座を行った。さまざまな分野において、工夫を凝らし中学生・高校生にわかりやすく仕事の内容を伝えるようにした。各専修学校も、実施する側としてカリキュラムの研究等を行い、受講する側の立場に立ってわかりやすい実習内容で行った。

その上で、どのような資格が必要か、またどのような事を勉強するかなど実習を通してその職業を十分理解してもらえるような形をとった。

参加専修学校は12校であったが、分野的には、工業分野、商業分野等多岐にわたっていた為、職業体験講座に参加した生徒からは、大変満足という回答が殆どであった。

また、参加した中学生・高校生は、実習を行うと非常に積極的に取り組み、熱心に説明に耳を傾けていた。

このようなことから、今回の事業は、キャリア教育の重要性・職業理解という意味合いからも、大変意義のある講座となった。

茨城県においては、高等学校が業者に依頼し、体験型の実習をする説明会が多く実施される。

この場合、専修学校は依頼のあった高等学校へ出向き、体験型の授業を1時間程度で行っていく。しかし、今回は時間的にも内容的にもまったく違ったものであり、更にはオープンキャンパスとも全く異なった詳細な内容であったため仕上がりが像も違ってくる。参加した中学生・高校生は普段とは違った内容で十分な職業体験を行う通信制の高等学校の先生のアンケートには、共同で作業するという事に慣れていないので、参加させることに不安があったと回答があったものの、参加者は全員が講座に集中していた。興味のある仕事、職種についての実習となると普段では見られない真剣な姿が見受けられた。

このようなことから、中学生・高校生の就労観の育成や職業意識の向上に大いに貢献したものと思われる。

③今後の活用

専修学校は、職業教育の最たる学校群であり、ものづくりという大変重要な分野を担っている。

職業教育を主たる目標とする観点からも、若年者に対し職業意識の醸成を図るということも課題である。

こうしたことから、高校生へ進路選択のためのいろいろな情報を的確に伝え、職業に関して具体的な理解をしてもらうための機会を増やすことは意義深いことであり、今後の実施についても積極的にいき期待するところは大きい。

このような講座に参加してもらい、職業意識を高めてもらい正しく進路選択ができる力を養えるものであり、ひいては離職率を下げるということにもなっていく。

今後とも高等学校と密接な連絡を図りながら、専修学校として職業体験の場を提供していくことで、キャリア教育ということが重要視されている昨今、一丸となって若年者の職業意識の向上・就労観の育成を図っていくよう、また進路選択におけるミスマッチ防止に役立てていくことが責務である。

今回の専修学校・高等学校連携等職業教育プランを実施し、参加専修学校も大変勉強になる部分が多く、また実習を行っている参加者からは真剣に将来を見据えている様子が見えたと感じた。

アンケートからも、今回のような職業体験講座は、効果的な職業意識の向上を得るという結果が証明された。

今後とも、このような事業を継続して実施し、若年者の就労観の育成・職業意識の醸成に寄与し、職業選択の一つの手段として、多くの高校生に専修学校職業体験講座に参加してもらえるよう努めていきたい。

④次年度以降における課題・展開

職業体験講座参加者にとって非常に効果的な、職業啓発ができたという実証を得られた。

次年度以降における実施の場合、今年度の内容を踏まえ、実施内容をさらに良いものに検討していくことが必要である。数多くの職種を選択して参加できるように、実施専修学校を増やしていき、中学生・高校生に周知徹底するために、高等学校と連絡を密にしていきたい。

茨城県においては、毎年5月上旬に、高等学校進路指導主事部会が開かれている。その際、専修学校・各種学校に関する時間をとってもらっている。来年度その場において、今年度実施した職業体験講座の件を説明し、さらに多くの高等学校に周知徹底して理解を求めていきたい。

また平成21年度は、茨城県において全国技能五輪大会が開催されることとなっている。

ものづくりの大切さ、キャリア教育ということで、義務教育課・高校教育課も交え会合を開いていることもあるので、それにかからせて専修学校での職業教育というものをさらにアピールし、一人でも多くの参加者を募ってきたい。

3. 事業の実施に関する項目

①職業体験講座、講演会の実施

参加専修学校とも、学校の特色を生かし、中学生・高校生に体験型の職業実習を行った。
12校で総定員224名となり、実参加者は175名となった。

| 講座名 | 学校名 | 実施日 | 人数 |
|------------------------------|---------------|---------------|-----|
| ○被服製作の楽しさを学ぶ | 細谷高等専修学校 | 7月24・31日 | 8人 |
| ○グラフィックデザイン (職業理解と基礎技術習得) | つくばビジネスカレッジ | 8月30日・9月6・27日 | 14人 |
| ○パン屋さん体験講座 | つくば調理製菓専門学校 | 9月14・21日・希望日 | 4人 |
| ○体験学習を通して知る 専門職の仕事と役割 | 晃陽看護栄養専門学校 | 1月17・27日 | 10人 |
| ○介護体験講座 | 水戸総合福祉専門学校 | 9月20・27日 | 7人 |
| ○自動車整備について | 水戸自動車大学校 | 9月20・27日 | 18人 |
| ○コンピュータ実習 | 水戸電子専門学校 | 9月20・27日 | 15人 |
| ○美容師体験講座 | 水戸ビューティカレッジ | 9月20・27日 | 22人 |
| ○事務のお仕事体験講座 | 水戸経理専門学校 | 9月20・27日 | 22人 |
| ○自動車整備と職業を学ぶ | つくば自動車整備専門学校 | 9月6・20・23・27日 | 38人 |
| ○3D-CADを使って住宅を設計しよう | 水戸日建工科専門学校 | 12月22・24日 | 12人 |
| ○パソコンの活用技術を学ぶ | 古河テクノビジネス専門学校 | 8月30日・9月27日 | 5人 |

各講座とも、2日から4日間かけて、夏休み・冬休み・土曜日・日曜日等を使い職業体験講座を行った。
参加者にとっては、かなり長時間の実習や講義となったが、どの講座においても、実習中心のカリキュラムを組んで実際にその職業に関することを参加者に体験してもらった。

自動車整備や介護実習・コンピュータを使った実習等、各学校の特色を生かし、多岐にわたり実施することができた。

参加者からは、大変満足だったというアンケート結果が殆どであり、「将来の職業選択について、大変参考になった。」「将来希望する仕事に興味を持つことができた。」「仕事の大切さを学んだ。」という感想が寄せられた。

職業体験講座に参加してよかったかという質問に対して、高等学校教員からは、大変満足10・やや満足11・普通1という回答が寄せられた。

以上のことから、高等学校でも否定的な意見は、全くなかった。

高等学校担当教員からは、「将来の職業選択への意欲や関心を高めることができ、非常に有意義であった。」「生徒が楽しんで学べ、更に将来の職業を考えるきっかけとなった。」との感想があった。

「校内では見られない、生き生きとした姿をみられた。貴重な体験ができた。」とも意見が寄せられた。

今回の職業体験講座に参加して、「生徒が将来の仕事を考えるうえで役に立ったか」との質問では、22校中21校が「はい」と回答している。

「来年も参加を希望しますか」との質問には22校中20校が「はい」と回答し、高等学校担当教員からも、非常に高い評価をえることができた。

講座に参加した中学生・高校生の様子を見ると、新鮮な取り組みでもあり、また自分の興味のある分野の実習ということもあるが、集中して課題に取り組んでおり真剣な表情がうかがわれた。

受講後の感想でも、もっとやってみいたいという希望が数多くあり、一つの技術習得が次の段階への興味を喚起していくようである。

高校生もこれまでの漠然とした捉え方から実践的・具体的な見方ができるようになり、あわせて専門学校の様子や担当講師とのふれあいを通し、その職業に関してより深く理解することができたようである。

このように今回の職業体験講座の実施を通して、参加者の職業意識向上が図られ、多様化している進路選択に関し中学生・高校生並びに高等学校の先生方に対して、具体的な情報提供が可能となった。

②その他

実施が今年度初めての為、なかなか事業の内容の周知・徹底というところまでいかなかった。
特にこのような事業においては、継続して実施していくところに良い結果が生まれると思う。次年度は、早い時期からの広報を展開し、啓蒙活動をするようにしたい。

また、参加専修学校も各校の特色を十分に生かした職業教育を行い、職業に就く為の知識・技能・資格や事例等を紹介し、中学生・高校生の職業意識の醸成及び啓発に努めていきたい。